



【2014年3月号】

▼FMやまびこ	佐藤 千恵	2
△本棚から	佐藤 仕展	7
▼里からのたより	関水 実	8
△FMやまびこ番外編	小林 邦子	10
▼ノートンの映画大好き	ノートン	14
△自閉症児の親も一日にしてならず	momoe	16

◆コラム (鹿野 詩織)	・・・6	◇疑問符だらけの現場用語集	・・・15
◇よこはま三歩 (長島 健太)	・・・19	◆後援会・編集後記	・・・20



「Aさんを知れば知るほど支援が広がる」

東やまた工房 佐藤千恵

◆Aさんの紹介

Aさんは、東やまた工房(以下、工房)に通所しています。平日はケアホームで、週末は自宅で過ごしています。

工房からケアホームに帰宅する際は、ガイドヘルプサービスを利用して、喫茶店や図書館に寄ることもあります。外出は好きな様で、以前はAさんのリクエストで旅行先を決めていたこともあったそうです。

Aさんは、気になることや興味のあるものは自分で調べたり、雑誌などから情報収集しています。昔のアニメキャラクターから最新の芸能情報まで良く知っていて、職員に教えてくれることもあります。

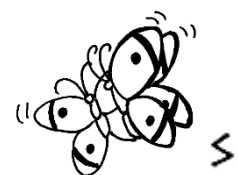
また、整理整頓が得意で、作業への取り組みもとても丁寧です。手先が器用で、細かな作業でも精巧に仕上げることができます。工房では、カードケースの受注作業を受けており、カードケースに紐を通し、止め結びをする作業なのですが、Aさんの完成した商品は、物差しで測ったのではないかと思うほど、止め結びの長さが一定にそろっているので、検品時、Aさんが仕上げた商品だとすぐ分かります。

そんなAさんですが、周囲の音に対する苦手さがあります。音の大小、騒音だけでなく、苦手とする言葉がいくつかあります。例えば「天気」「気温」「チャンネル」などです。苦手な言葉が聞こえると、耳ふさぎや自分で別の言葉を話すことで不快感を和らげようとしたり、切り替えようとする様子が見られます。

◆Aさんの様子の変化

今から約2年前、上記のような耳ふさぎや突発的に職員のところまで飛び出すなど、集中して作業に取り組めていないことが増えてきました。工房から帰宅する際、逃げるように走って出て行こうとする姿もあり、今までのAさんとは様子が異なりました。

ケアホームや自宅では落ち着いて過ごせていたため、工房での過ごし方や環境にAさんを不安にさせる要因があると考えました。そこで、「安心して過ごしてもらいたい」「作業に集中して取り組んでもらいたい」と思い、工房での過ごし方や環境について再検討しました。



◆今の環境を見直し、苦手な音から遠ざける

まずはAさんの苦手な音（他利用者の声など）が少なくなるよう、他利用者との動線の配慮、苦手な音から遠ざけた作業場所に変更を行いました。さらに、新しいスケジュールやワークシステムを取り入れることで、苦手な音よりも日課や活動に着目してもらい、落ち着いて作業に取り組めることを期待しました。また先に挙げたような苦手な言葉があるため、Aさんへの伝え方など職員の関わり方も整理しました。

新しい支援の開始直後は、落ち着いて過ごすことができました。しかし、2か月も経たない内に不安定になることが増えてしまいました。定期的に作業席の変更などを行いました。安定した状態を維持することが難しいようでした。

上記の支援を行う中で、Aさんについて以下のことが分かってきました。

- ・変化など「ほどよい緊張感」があると、やるべき事に意識を向けられる。
- ・興味や関心のあるものには、注意が向きやすい。
- ・気分が高まった際は、音に対する過敏さが強くなる。
- ・音への不快さを自身で解消しようとするが、言葉の連想が終われなくなり、気分を高める傾向がある。

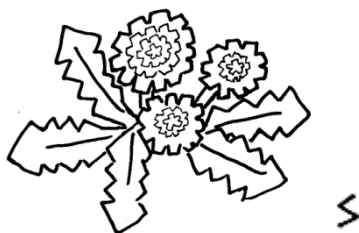
◆Aさんは何のために仕事をしているのかを考える

上記のような物理的な環境への配慮だけでは音が気になり、仕事が手につかないことが分かりました。そこで、Aさんの工房での過ごし方について再度、考えました。

工房では決められた日課に沿って過ごしている状態で、日課をこなせている様に見えても、同じことの繰り返しにより、Aさんにとっては何のために仕事に取り組むのか意味が持ち難くなってしまったのではないかと、そのため、苦手な音に対して意識が強まり、落ち着いて過ごせなくなっていると考えました。

そこで、Aさんに仕事をする意味を持ってもらうことで、仕事への意識を高め、苦手な音を気にせず過ごしてもらえるのではないかと考え、以下にポイントを置き、支援内容を検討しました。

- ・仕事をする楽しみ、目的、達成感がある。
- ・自分で決めたり、選択できる機会がある。
- ・気分が高まった際は、気分転換ができるツールがある。



◆好きなキャラクターを活用する

A さんには好きなことや興味があるものが多々あります。例えばドラゴンボール、ディズニーなどのキャラクターです。そこで、A さんの好きなキャラクターを用いた作業表を使用することに決めました。見て楽しめることで、気分が高まった際に気分転換ができるツールとなることも期待しました。作業表は作業1つに対しポイントが1つたまります。1つたまるごとに目的に近づいていくことが見て確認できるので、達成感が持ちやすいと考えました。また、最終目的に達成するまでの間も、楽しみが継続できるように一定のポイントがたまるとキャラクターのシールがもらえるようにしました。

◆ポイントがたまったら「何があるか」を伝える

ポイントを達成できた時、A さんに楽しみにしてもらえそうな活動の検討をしました。外出が好きなことや音楽を聴くこと、雑誌を読むことが好きなため「TSUTAYAにCDを借りに行く」、「文教堂に本を買いに行く」の2つの内容に絞り、どちらにするかはAさんに決めてもらうようにしました。

作業表などに使用したキャラクターは次の作業表に変わると、別のキャラクターに設定し直すことで、変わることを楽しむようにしています。

【ドラゴンボール Ver.の紹介】

好きなキャラクターで気分転換！！

② 作業が32個できると、キャラクターのシール(ドラゴンボール)がもらえます。キャラクターシールは7枚ためます。

7つ集めて買い物に行こう！！

③ 7枚キャラクターシール(ドラゴンボール)がたまったら、買い物先と日程をAさんと決めます！

①

作業1つごとに1つポイントシールを貼っていきます。

マンやま
4

◆A さんの変化と買い物の様子

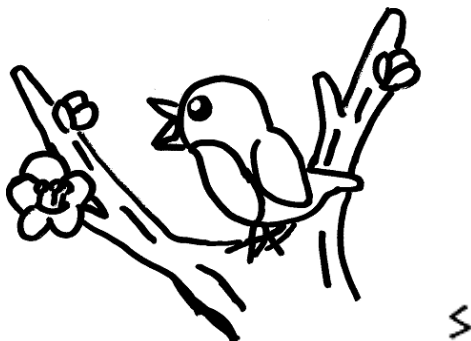
支援の見直しから3カ月が経ちますが、仕事への取り組みも良く、黙々と作業に取り組む様子が見られます。苦手な音を気にして作業が手につかないことは、以前に比べ減っています。作業表のキャラクターを見ながらニコニコして過ごす様子も見られます。苦手な音に気分が高まった際も、好きなキャラクターを見ることで切り替えられています。また、ポイントの達成が近づくと、作業ペースが高まり集中する様子が見られるようになりました。ペースが早まっても以前の完成度に変わりはなく、とても丁寧です。

買い物は月1回のペースで楽しめており、CD を借りに行くことがほとんどです。初回の買い物時は、デジタルウォークマンを購入するため電気屋にも行きました。黒、青、赤の3色ある中から赤色を選んでおり、自分で好きな色を選べたことも嬉しそうでした。

TSUTAYA に向かう道中では、足早に向かう A さんの様子から、楽しみにしていることが伝わってきました。何度も CD の曲目を見たり、ジャケットを見たりしながら、30 分ほどかけて4枚の CD を選びました。レンタルするのは「aiko」や「木村カエラ」、「柴咲コウ」などの女性歌手のものが多くです。

TSUTAYA に置いてあるフリーマガジンを持ち帰ることもあります。今回は、何の CD を借りるのか尋ねると「青山テルマ」「倉木麻衣」などと教えてくれることもあります。『CD を借りに行く』という活動の中に、自由に選べたり、興味のあるものを見たり、次に借りたい CD を考えながら過ごすことも A さんにとっての楽しみになっている様です。

借りてきた CD は職員と一緒にパソコンを使用して、デジタルウォークマンに転送しています。好きな音楽を聴くことで、休憩中でも苦手な音があっても気にせずに過ごせることが増えました。デジタルウォークマンの使い方にも慣れた様で、充電が切れると自分で充電器を取り出し、セットしています。



◆まとめ

この2年間、Aさんの支援の見直しを数回行ってきました。これまでは、物理的な構造化に重点を置いてきましたが、それだけでは、Aさんの安定した状態を維持することが難しく、集団生活の中で、Aさんの苦手な音を制限することにも限界がありました。

今回、動機にアプローチしたことでAさんの変化を実感することができました。Aさんの苦手さに着目するのではなく、Aさんの強みを引き出す過ごし方を考えることで、生活に幅を持たせることができるということを教えてもらいました。

その人らしく安心して過ごすためには、「物理的な環境設定」と、「納得や目的、やりがいなど動機となるものがある」ことの両方が必要なのだということも改めて学びました。「自閉症の障害特性」と「Aさんの個性」を理解しながらAさんが安定した生活ができるよう、今後も家族を含めたチームで考えていきたいと思います。

今回、学んだことや実感したことを大切にしながら、今後の支援にも活かしていきたいと思います。

～コラム～

はじめまして。今年度から本牧和田地域ケアプラザ内の通所介護でケアワーカーとして働いている鹿野詩織と申します。

ついこの間2014年を迎えたと思ったら、あっという間に3月になってしまいました。私ももうすぐ社会人として働き始めて1年がたちます。まだまだ未熟な私は毎日が勉強の日々。2年目も初心を忘れずに自分にできることを一生懸命頑張っていきたいと思います。

今回は私の大好きなスポーツ、チアリーディングについてご紹介したいと思っています。チアリーディングは、アメリカンフットボールや野球、サッカーなどのスポーツを応援することから始まったスポーツです。チアリーディングは「いかに観客を魅了し、引き付けることができるか」を競う「表現スポーツ」です。掛け声や息の合ったダンス、組体操技術であるスタンツやピラミッドなど、チアリーディング特有の技術を使って演技を構成し、元気の良さや楽しさ、美しさを表現します。

私は学生時代のチアリーディングで培った明るい笑顔や元気な声は、今の仕事でも活かせていると感じています。そんなチアリーディング、普段はほとんど見る機会はないと思います。いろいろな大学の大学祭や大会などで見ることができますので、このコラムを読んで少しでも「見てみたい!」と思った方は、ぜひ足を運んでみてください。チアリーダーたちの明るい笑顔と華麗な演技に元気づけられること間違いなしです! 本牧和田地域ケアプラザ 鹿野詩織



本棚から

『僕の妻はエイリアン』

「高機能自閉症」との不思議な結婚生活」

泉 流星 著 新潮社

何だか、せわしく感じるここ数年。仕事を続ける上でもっともっと知りたい事があるのに、諸々の理由と都合でなかなか新しい知識をインプットするヒマを作れずにいる私です。

そんな中で、最近見つけた折衷案。それが、“発達障害に関する漫画やエッセイを読む”という方法です。これが、中々にオススメ。「専門用語や難しい技法が所狭しに詰まっている専門書はちょっと重たい…でも、何かしらの新しい情報には触れていたい!」という時に、気軽に読めるエッセイや漫画はとてもありがたいものです。

そういうわけで、今回ご紹介したいのがこの本。ひとことで言うと、高機能自閉症と診断された“妻”との夫婦生活を、夫である“僕”の目線から愉快地に記したエッセイです。

私の話しに戻りますが・・・利用者さんと接する中で、もどかしくなる事が時々あります。というのも、例えば動きを止めてしまった時に、パニックになっている時に、「何故困っているんだろう」「何を葛藤しているんだろう」というのがまるで分からず、ただオロオロと付き添う事しか出来ないからです。そんな時にすごく参考になるのが、高機能自閉症やアスペルガー症候群と診断されている“喋れる”自閉症の方々の言葉なのです。

本作中での印象的なエピソードとして、“職業欄に、何と書いて良いか分からない”というものがありました。専業主婦の奥さん

に対し旦那さんは「適当に“専業主婦”と書くといいよ」とアドバイスしますが、奥さんは腑に落ちない様子。旦那さんは、まさに“普通”の感覚で「家に居て家事をしている事の何が恥ずかしいのか分からない」と思うワケですが・・・実は奥さん、職業欄を字義どおりに「就いている職業を記載する欄」と認識し、「家事をしっかりとこなせていない自分が職業を主婦とするのは世の主婦に失礼」と考えている事が判明するのです。旦那さんは「僕が想像していたのとまるで違う」と言っていますが（私も同感!）、きっとこの差に気付く事が、よく言われる“自閉症者の文化を理解する”って事なんだろうなあと思ったりします。

似たような行き違い、きっと普段から私と利用者さんとの間でも起こってるんだろうなあ・・・と、正直言って冷や汗をかくような思いで私は読みました。しかも、私の場合はいわゆるカナータイプの、もっともと言葉が少ない方々と関わる機会のほうが圧倒的に多いので・・・。

高機能自閉症の方々のエピソードを通じてカナータイプの自閉症の方々の内面を推し量れる事って、結構多いように感じます。意外と、専門書よりリアルなケースが載っていたりもしますしね。

こういうジャンルでオススメの本があればぜひ、教えて下さい!

地域課 佐藤 仕展

田んぼのたより

東やまたレジデンス 関水 実

集団と個別について、最近の2つの経験から考えてみます。

ひとつめですが、2月に横浜市自閉症教育推進懇談会が開かれ、市の特別支援教育課が23年度から26年度の4年間の計画で行っている自閉症教育推進事業についての中間報告が行われました。横浜市教育委員会は「自閉症にやさしいまち 横浜をめざす。」というスローガンのもとに、この間積極的に自閉症教育をすすめるための活動を行っています。

今回の報告の目玉は、小・中学の現場の先生向けのマニュアル集「自閉症教育の手引き～認めよう、見つめよう、育もうⅡ」が出版され、具体的な支援法に豊富に触れた内容だと高い評価を得ました。

教育の分野では、ユニバーサルデザインが強調され、だれにでもわかりやすい教育という観点から、「構造化」や「環境の整備」ということもクラス全員の理解の推進という視点からすすめられています。自閉症児への配慮も以前に比べ、クラス全体に対する配慮として実施されることが確実に増えてきています。

ではなぜ、自閉症教育が前進したとなかなか実感できにくいのでしょうか。これは、クラス全体(集団)に対する配慮を前提にされながら、どれだけ個別的な配慮がされるのかにかかっているのですが、そこが充分ではないのだと思います。

いみじくも、委員の本田秀夫先生(山梨県立こころの発達総合支援センター長)が、「学校教育は、集団対応モデル、医療は、個別対応モデルで基本的に立脚点が違う。学校教育は、集団への配慮から、個別への配慮の段階にすすむ段階に抜本的な課題がある。」と指摘なされましたが私も同感です。

ふたつめですが、私たちの法人では、今年の3月に10軒目のケアホーム(ハウスK・仮称)の開所を予定しています。対象者を高機能群の発達障害をもつ方として利用希望者を募りました。広く広報したわけではないのですが、想像以上に多くの方の応募がありました。希望者は、一見すれば知的障害のケアホームでも、精神障害のケアホームでも希望すれば入居できそうな方ですが、そういった従来型のグループホームでの集団生活に、ご本人やご家族が馴染めそうもないと不安をもっていて、今回のケアホームに応募されています。私も、発達障害者支援センターに所属していた時に、知的障害のケアホームや精神障害のケアホームで生活をする自閉症スペクトラムの方々を、どうにかそのホームでの生活が継続できないかとサポートしてきましたが、結果的には退所せざるをえなかった苦い経験があります。

既存のケアホームでの発達障害の方々の課題は、煎じ詰めると、ケアホーム内での個的生活と集団生活の折り合いの難しさです。集団への適応を大きな前提とした生活は、高機能と言われる自閉症スペクトラムの方々でも、いかに困難が大きいかがわかります。

ふたつの経験から言えることは、集団への適応を大きな前提としてしまい、それを崩さずに集団への全体的な配慮のみをすすめても限界があるということです。

横浜やまびこの里が、創設以来自閉症支援を通じて訴え、伝えようとしてきたのは、福祉における個別支援モデルの実践です。医療は個別、教育は集団という切り分けは前述しました。福祉も多くの場合は集団での適応が優先課題として挙げられる集団モデルの業界と言えます。その中で私たちは、個別対応モデルを前提として支援を組み立ててきました。しかし、その生活支援の実践は、主としては重度な知的障害を伴う自閉症者の方々が対象でした。

横浜やまびこの里は、自閉症概念の拡大の中で、法人の方針として自閉症スペクトラム障害総体への支援を打ち出しています。事業の展開も、横浜市発達障害者支援センター、横浜市日吉就労援助センター、学齢後期発達相談室「くらす」の運営など、最近では、相談支援事業を中心に自閉症スペクトラム全体総体へのシフトがすすんでいます。

その中で高機能群の相談は増加していますが、高機能群への生活支援の実践は、十分な展開ができてきた訳ではありません。障害の重い人達に、個別支援が重要なことは理解できても、高機能群にもそういう個別配慮が同様に必要だということが、私たち自身が事業の進捗の中で改めて理解できてきたのです。

横浜では、私も関係するNPO法人PDDサポートセンター「グリーンフォレスト」がイオ・プレイスという発達障害を対象とし、アパートでの独居生活をめざした移行型のサポートホームの実践もすすんでいます。今回の横浜やまびこの里の高機能群向けのケアホームは、シェアハウス形式での生活、つまり、個的な生活が前提として保障されながら、無理のない範囲で、個々人の関わりを担保できる生活をめざしていると利用希望の方には伝えています。彼等の人達の立場に立った生活の選択肢が広がることは大事なことだと思います。

個別的な支援を前提とした自閉症スペクトラムの生活支援が、重度の人から高機能群までの一連の流れの中で組み立てられ、実践できる態勢をめざします。そのことが、自閉症スペクトラムをもつ方々を総合的に支援できるスタッフ育成に繋がると考えています。



振り返る道向かう道⑧ 食中毒で危篤に

小林 邦子

最重度自閉症の息子俊文は 48 歳になった。世間の理解は得られなかった幼児期、少年期。東やまたレジデンス入所という大きな幸運をいただいて 17 年。ようやく適切な支援指導をいただくようになり、現在は穏やかな日々を過ごしている。母親の私は高齢者の域に入り改めて振り返る過ぎゆきである。

平成 5 年 10 月末、保護者会で学園に行くと、昨日から園生たちが原因不明の高熱を出しているという。伝染病かもしれないので、寮の居室に入らず面会もしないよう言われた。居室を覗くと寮の園生全員が蒲団をかぶって身動きもしていない。不安な気持ちで帰宅したが翌日、学園が大変なことになっていると保護者から教えられすぐに学園に行った。生ハムのサルモネラ菌による中毒で百余人の園生の内 90 名の発病という。保護者は掃除や洗濯の手伝いに追われたが、学園全体が病院化していた。俊文がふらふらとトイレから出てきた。いつもなら帰宅をせがむのに、つらそうな表情で私をちらりと見て室に戻り、すぐに蒲団をかぶってしまった。点滴の始まった園生もいたが、暴れるので手足を拘束されている。腹痛の上にどんなにつらいだろう。言葉の出る園生は救いを求める悲痛な叫び声をあげていて、可哀想でいたたまれなかった。

食中毒は新聞やテレビでも報道され、重症の園生から各病院に運ばれた。11 月 2 日、学園に着くと俊文を乗せた学園のマイクロバスが、病院に向かって出発するところだった。俊文はシートに座っていたが意識はほとんどない。市立港湾病院の一室に園生 6 人が入院し、職員や保護者が付き添った。6 人の白血球が異常に高く全員が重い症状という。私は医師に呼ばれ、特に俊文は重態で GPT の数値が桁違いに高く、敗血症の一步手前の危険な症状なので、覚悟をしておくように言われた。

翌日、俊文は少し起き上がるがすぐ眠ってしまう。起き上がろうとするのだが、力が出ずに泣き顔を見せた。学園から派遣された家政婦さんが、俊文を清潔にと徹底的に消毒してくださった陰茎が入院 2 日後に腫れ上がった。細菌が入ったということで急遽手術を受けた。俊文が哀れでいたたまれず、亡き夫にお迎えにきてほしいと祈ってしまった。食中毒から 9 日後に初めてパン、みかん、牛乳などを口にしたが起き上がる元気はない。幻覚を見るのかしきりに何かをつかむ仕草をしている。私が俊文の手をつかもうとすると、はらいのける。入院中「ミズ」「ゴハン」「イタイ」などの単語を発した。

同室の5人の園生は発病2週間後に退院し、職員も付き添いの家政婦も引き上げ、広い病室に俊文だけ残された。病院では完全看護をするので母親は付き添いをしなくてもよいという。そこで俊文のベッドを窓際に移してもらった。港湾病院は本牧ふ頭の入り口に位置する。2階の窓の下の道路には俊文が興味いっぱいのトレーラーやコンテナ車が昼夜列をなして信号で止まる。その光景をベッドに坐ったまま楽しむことができる。窓際にポータブルトイレを置いてもらったが、トイレに降りたついでに、窓辺に寄ってコンテナ車の列をながめて楽しんでいる。点滴の針と管がついたままなので、逃げ出すことはあきらめて静かに過ごしている。俊文が入院などしたら、どんなに大変かと予想もつかなかったが、3日3晩を付き添いもないまま、問題を起こさずに過ごすことができて、これは意外な収穫であった。

退院の日が来て俊文を迎えに行った。点滴が終わったが針を外されればベッドから逃げ出すだろう。眠っている間に抜いてもらい、気づかないように包帯を巻いてもらった。学園から女性保育士が迎えに来たが、俊文は腕に針のついていないことに気づくと猛然と室を飛び出した。エレベーターに乗せようとしたが、手術の時に乗っているのでエレベーターが恐ろしいのだろう。すぐ前の階段から下りようとした。2週間以上も歩いていないので足元が危ない。階段を転げ落ちて骨折されたらたまらないと必死で抑えつけた。保育士に車椅子を借りてくるよう頼み、その間に階段を下りようとする俊文をなだめて、ようやく無事に病院を出た。このまま帰宅と思ったのだろう、学園に着くと車を降りることを拒んだので「お母さんは今からまた病院に行くのよ。俊文も行く？」と言うと、ようやく降りたので車椅子を借りて寮まで送った。俊文が最後の退院だったので、各寮の前を通るたびに「お帰りなさい」と拍手が起こった。思いもかけなかった食中毒の体験だった。

全員が退院すると、保護者会の緊急役員会が開かれた。役員は会長、副会長、会計、6つの各寮委員と編集係の私であった。議題は今回の集団食中毒の原因は学園にあるので、県に訴えて慰謝料を請求したいというものだった。看病のために保護者たちが勤めを休んだりした補償もほしいという意見が出た。私は1人反対だった。勤めができるのは普段こどもを入所させているからで、そんなお金があったら学園に大きな冷蔵庫を買ってほしい。食中毒の原因は生ハムが冷蔵庫に入り切れなかったもので、常温に1昼夜置いたことだった。一番つらい思いをしたのは園生なのだから、園生に美味しい物を食べさせてほしいと言うと、女子寮の母親が強力な賛成論を述べてくださって、保護者会からは何も請求しないことに決まった。学園も同じ考えだったらいい。大きな冷蔵庫が購入され、園生たちに快気祝のお食事会があったという。

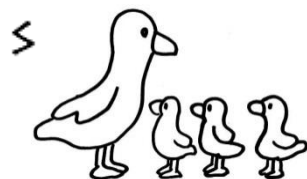


平成6年、更に投薬が増えて、ハイセレニン200mgが1回4錠から5錠に増え計26錠を日に3回、合計78錠の服用となった。療育センターにはまだ年一度の医療相談がある。以前に佐々木正美先生より投薬の異常を指摘されたが、この時はこのままそっとしておいてくださいと佐々木先生にお願いした。学園より投薬に口出しするなと叱られたので、退園させられる不安があったのだ。

佐々木先生はご多忙のため医師が替わられたので、この先生の回答はいかがだろうと、ひばりでの処方薬の表を出した。「えーっ。まさか、こんなに人間が飲めるわけがない」と信用されないの、夏休みの間、飲ませそこなった薬の包みを出した。さらに仰天され「これでは殺人ですよ。いったい、どこのどの医者ですか」と言われる。「〇大病院のY医師です」と答えると、「えーっ。Yさんなら私と同じ病院だから知ってますよ。Yさんかー」と言ってから、しばらく沈黙が続いた。「まあ、何か理由があつての投薬でしょう」と、きまり悪そうに言われた。殺人となるほどの薬であることを認識したが、やはり声をあげることができなかった。

俊文が学園の散歩中に事件を起こした。園生がグループに分かれて毎日の散歩があるが、俊文の思ったコースと違ったのか苛立っているところに、通りかかった老婦人を押して転ばせてしまった。引率していた指導員らは、その場で俊文に激しい体罰を加えたという。婦人は翌日、園に来られて抗議をしたが、俊文にではなく園生にあのように乱暴をした行為の方がずっとおそろしかった、指導員にどんな教育をしているのかという学園への抗議だったという。親の私がついているときにこんな事が起きる不安をいつもかかえているので、怪我には至らなかったことに安堵し、婦人の優しさに深く感動し、心あたたまる思いだった。

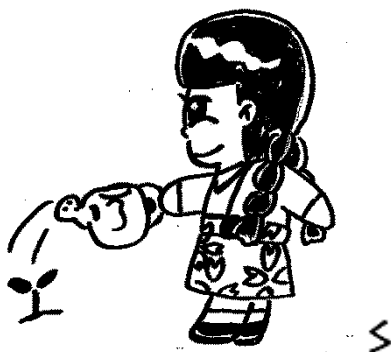
平成7年に兄が30歳で結婚した。勤めの関係で単身赴任の期間が多いが、年末年始のドライブの協力は助かっていた。しかしもう頼れない。俊文は食中毒以来、体力が減退し向精神薬の多量の服用もあって動きが更に鈍くなった。パズルなどの遊びも面倒のようで、もっぱらドライブをせがむようになり、車のキーを出してきて私の手をひっぱる。ドライブで気をつかうのは、渋滞の場所で俊文が外に出してしまうことである。薬が原因で喉がかわくと聞いたが、大量の水を飲むので排尿間隔が近い。又自販機をめがけて走ってしまうこともあり、渋滞中の車を置いて追うことになる。チャイルドロックをかけると怒って母を叩くのでこれもできず、高速道路ばかりを走るようになってしまった。



始めの頃は第三京浜を往復して料金所のトイレを使っていたが、小さい子供に手を出しそうになったことがあり、道路の路肩に停めて野天トイレとしていた。平成2年に開通した首都高速横浜ベイブリッジのコースは、俊文の好むコンテナ車が次々に走ることから、ベイブリッジ行きをせがむようになってしまった。

毎年夏の横浜港の花火大会と俊文の帰宅の日が重ならないよう祈るばかりだったが、花火大会と重なって渋滞に巻き込まれたことが3度ある。橋の上で30分も花火を間近に見ることになるが、いつ俊文が降りてしまうか緊張の極に達し、花火を楽しむゆとりはない。俊文は助手席の窓から花火の全景を眺めておとなしくしてくれていた。

ベイブリッジから羽田空港脇を通り、横羽線に入った時のこと。羽田の料金所脇にトイレがあるのでいつもは寄って、売店でホットドッグを買っていた。この夜は車が溢れて停められない様子なので素通りした。少し走ると俊文がドアを開けようとしている。「俊文、おしっこなの。ちょっと待って」と路肩の広がっている箇所に車を停めた。ところが俊文は降りると車道を羽田に向かって走り出したのである。驚いて叫びながら後を追った。横羽線は道幅が狭く路肩の幅がほとんど無くトラックは壁すれすれに走る。夜間なのでぎりぎりに近づいて運転者も驚くのだろう。次々にけたたましいクラクションを鳴らして、すれすれに通ってゆく。俊文を道連れならもう死んでも仕方ないと思った。ようやく追いついて渾身の力で俊文を車まで引き戻した。トラックの誰かが警察に電話するかもしれない。パトカーが何台か来るだろう。警察に追われる犯罪者の思いで、すぐに川崎出口より一般道に降りた。近くにガソリンスタンドがあり、そこでトイレに行き、好きなあずきアイスバーを買って落ち着いた。事故との紙一重のところだった。ところがここでアイスバーを買うということを覚えたことで、後に思いがけない事件を起こすのである。



ノートの《映画、大好き!》



「沈まぬ太陽」(2009年)

2月から3月に近づくにつれて、春らしい日和が増えてきました。早く温かくなって欲しいものです。関西では中国からのPM2.5の影響が見られております。何となく空がかすんでいるような状況が見られています。とは言っても、PM2.5なんぞは目にはっきりと見える訳ではありません。放射能もそうですが、はっきり見えないことが身体に影響するということは怖いものだと言わざるを得ない時代になって何だか嫌なものです。困ったものです。仕方がないので、嫌なことは忘れようと今日も自宅でビールを飲みつつ、いい気持ちになっているノートンです。

さて、映画の話ですが、今回は邦画の長編映画をご紹介します。昨年の9月に亡くなられた山崎豊子さん原作の映画です。山崎さんの作品はたくさん映像化されています。「白い巨塔」「華麗なる一族」「不毛地帯」などなど。企業の中での人間関係における様々な葛藤や確執や軋轢を描く作品が多いです。今回紹介する「沈まぬ太陽」(2009年)という作品もそうです。日本航空123便の墜落事故がモデルとしてストーリーの中で出てきます。3時間22分という時間の長い大作ですが、ぐいぐいと引き込まれる映画でした。では、簡単にストーリーを……。

国民航空の労働組合副委員長・恩地(渡

辺謙)は委員長の行天(三浦友和)とともに、職場環境の改善に奔走していた。しかし、会社側の上層部の息がかかった第2組合が発足後、疎ましい存在として扱われ、海外勤務を命じられてしまう。テヘラン支局、アフリカのナイロビ支局と10年におよぶ過酷で孤独な勤務が続く。その間、日本社内では第2組合が一大勢力になり、行天は出世の道を選ぶことで第2組合に寝返っていた。そんな中、ジャンボ機墜落事故が起き、恩地は事故対応係として日本に戻ってくる。救援隊として現地に行った彼はさまざまな悲劇と遺族の憤りを目の当たりにする。また、国民航空の誠意の欠けた対応や上層部の汚職、会社の腐敗を知ることになる。会社の問題は国家の問題となり、組織の建て直しを図るべく就任した国見新会長(石坂浩二)のもとで、恩地は会社の腐敗と闘うことになるが……。

渡辺謙はさすがです。恩地という芯の強い人物の葛藤を見事に演じておられました。長時間の映画ですが、最後まで飽きずに観ることができます。大きな事故で痛手を負った遺族の方々の苦しみや、その苦しみをできるだけ癒そうとして奔走する恩地のひたむきさに共感できます。誠心誠意を尽くすことの難しさとその大切さを考えさせられました。非常におもしろい作品です。ぜひ、ご鑑賞ください。



～その54～「空気」から見た支援現場

ウェブサイトの言論プラットフォーム「アゴラ」で精力的に執筆活動をおこなう池田信夫氏がまとめた『「空気」の構造』（白水社、2013年発行）を読むと、日本社会における組織の意思決定や人々の行動規範の特徴がよくわかります。

本書によると、日本は（西欧社会に比べて）、＜「空気」が法律より重い国＞です。曰く「個々の現場がタコソボ化して、全体を統括する中枢機能が弱い。目的を設定して必要のない部分を切る全体戦略がないので、現場がいくら頑張っても収益があがらない。意思決定が人間関係に依存しているため、指揮官は調整型になり、子飼いの部下ばかり集まる。「平時」に淡々と業務を運営するときは強いが、「有事」の危機管理に弱い」（P62）となります。

本書はこのような日本社会の特質を、歴史的な文献や事象、そして西洋との比較から整理・分析・展望しているものですが、私が取り上げたいのは、このようなことが自閉症支援の現場でもあちこちで観察できるという点です。

たとえば、社会福祉法人や福祉施設における組織・現場の様子を振り返ってみましょう。

【現場のタコソボ化】各フロアや作業エリアにいるスタッフチームがそれぞれで支援のやり方や活動内容を決めている。スタッフらも個人レベルで判断して利用者対応をおこなう。対応の統一をいくら強調しても、スタッフは自分の感覚や都合で行動しがちだ。

【全体を統括する中枢機能が弱い】理事長や施設長、サービス管理責任者などは、部下から「まつり上げられる」存在である。全体を統括して指揮命令するより調整役になっている。組織の現状を維持することはできても、組織を能動的に動かすことは苦手。

【目的を設定して必要のない部分を切る全体戦略がない】利用者ニーズや個々のスタッフの都合、行政や地域の意向を汲んでいくと、組織は際限なく肥大していく。しかし、それは戦略的に事業展開しているものではなく、やらざるを得ない状況でやっている。まさに周りの「空気」を読んで（に押されて）、事業が進んでいく。

【意思決定が人間関係に依存し、子飼いの部下ばかり集まる】タコソボ化した小集団の組織が自律的に動くのが日本の職場の典型。そこは、よく知った仲間内で物事が決まる「下剋上」のエートスだ。「空気」が読めない新参者は「村八分」や「押込」にされる。

【「平時」は強いが「有事」は弱い】平和な状況では、物事は仲間内で淡々と処理される。議論や決断は先送りされ、毎年同じように時間が流れていく。しかし、いったん危機的な状況になると極端にもろい。何年も同じ行事や日課をこなす閉鎖された施設の暮らしは平和だが、事故対応や新規事業展開で外部と接触・交流すると組織は相当に動揺する。利用者の「問題行動」も、施設の「空気」を乱す存在として認識されているのかもしれませんが。あなたの職場の「空気」を意識してみるのには、決して無駄ではありません。良いか悪いかはさておき、そういう「空気」に支配されていることを自覚してみましょう。

＜自閉症eサービス代表 中山清司＞

自閉症児の親も

一日にしてならず。

★momoeさん紹介★

知的障害のある人の地域生活支援をする特定非営利活動法人の理事です。首都圏通勤圏にある某市に夫と夫の母親(要支援 2)、某病院機構事務方に就職した長男と生活介護事業所(通所)5年目・23歳で知的障害と自閉症がある(療育手帳で最重度、障害程度区分 6)の次男と暮らしています。

ペンネームは
momoe



いよいよ次のステップへ その4 の巻

9月1日 毎週土曜日のプール「在宅障害者訓練会」が20周年ということで、記念に参加者家族と支援者で、東京タワー、浅草のホテル昼食とサンシャイン水族館を巡るバスツアーをする。車椅子ユーザーが3人いるので、それ専用のバス、ということで頼んだので、集合場所ではちゃんと設定してありすぐ乗りこめるものだと思っていたら、可動式の座席を全く動かしておらず、我々がついてからのセッティングとなってしまった。重度重複の方は体温調節も難しいというのに朝から気温の高い中、1時間近くもバスの外で待たされることになった。

天下の「OTB」のお勧めでのバスチャーターでこれかい？そーぞーりよくというものがなさすぎ。

それでも運転手さんも添乗員さんも精いっぱい頑張ってください、ツアー自体はとても楽しいものになった。あえての東京タワー・サンシャインだったが、どちらもエレベーターは何人かに分けてのる状態で、結果、展望室や水族館は家族単位で過ごすということになった。夫は写真を撮る係だったが、「お年ごろ」の車椅子ユーザーの男の子は「撮るなよ」という感じで顔をそむけてお母さんしかとらせてもらえなかったり、人気のキャラクター像の前では撮影の順番待ちをしたりと休日の観光旅行感たっぷり。

9月2日 8月からベーカリーに通い出して、3回目のベーカリーから造形余暇活動に寄って家に帰る日。初回は予告が足りなくて次男を混乱させてしまったが、この日からはすんなり。十分な予告+実行(経験)3回というのが安定する目安か。



9月5・6日 10月1日からのベーカリーのショップオープン以降は長時間の余暇活動ができなくなる、ということで、ベーカリーの利用者＋職員で法人のワゴン2台に分乗して一泊二日の旅行に出かける。台風がまだ抜けきっていなかったので、出かけるときはまだ雨が結構降っていたのだが、西方面に出かけたため行った先では止んでいたそうで、遊園地での楽しそうな様子の写真を見ることができた。男女別にユニットのような部屋だったそうだが、やはりなかなか寝付けず、「にやにや」という感じの雰囲気遅くまで起きていたようだ。

9月18日 朝、また、上りの快速にのっているのがGPSの検索でわかる。前回の反省を踏まえ、「上流」で待機し、同じ電車に乗り搜索することにしたので、首尾よく同じ電車に乗れたのだが、朝の上りの快速は劇混みで、車内移動が困難。なかなか次男を発見できず、乗り入れの地下鉄の半ばに差し掛かったところにやっと見つける。次の駅で降り、下りに乗り換えベーカリーに行く。心配して待っていた職員に様子を話し、次男には何も言わず（怒っているという雰囲気も醸さず）ただ、みんなが心配するから、きちんとしたルートでベーカリーに行くよう、乗り換える駅名などをメモ帳に書いてみせる。遅れて着いたものでいつもの流れからの作業ではなかったが、特に変わった様子はなかったということで職員と私それぞれで原因を考えてみることにする。帰宅後も変わった様子はなく、次の日も行き渋りなどはないので、様子を見ることにする。

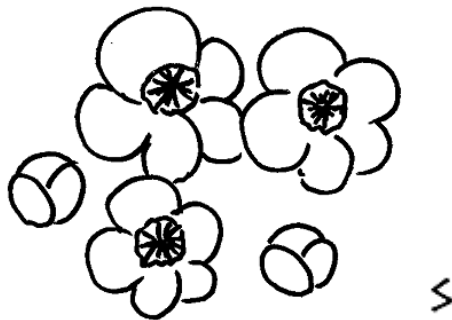
9月22日 す〜っと大事にしていた「サマージャンボ」のはすれ券をハサミで切りだす。他の宝くじ券はすぐに切ってしまうのに、この券の絵がとても好きだったらしく、毎日家族に「ぞう」やら「ロボット」やら何度も言わせてにこにこしていたのだが、ついに。

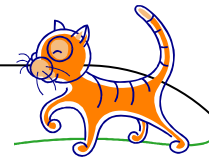
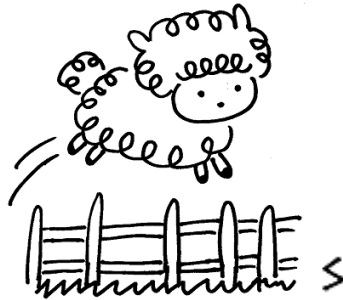
紙とみれば手当たり次第に切りまくって、部屋中「ハムスターの巣」状態、佐々木正美先生に「彼のファイリング法」と言わしめていた紙切りだが、ファイリングのバリエーションが出てきたのかな。

9月29日 2代目次男のGPS付き携帯も使用3年になったので、小型のものに買い替えることにする。iモードではない形式だそうで、いったん「いまどこサーチ」を解約して再度契約することで使えるようになる。



9月30日 …するってえと、ベーカリーからの帰り早速普通に乗換えずに快速で都心に向かっているのが「通過してから」わかる。前のに比べてちょっと感度が悪かった！！当然追いつかず、終点の駅に電話して次男の服装などを伝え、見つけて降ろして待たせてもらえるように頼む。しばらくするとその駅から電話があり、「見つけたので、降りていただこうとしたのですが、どうしても降りていただけないので、そちら方面に向かって折り返します、途中の〇〇駅で落ち合いましょう」とのこと。その途中駅でも降りない、と頑張ったそうだが、一部始終を見ていた隣に座っていた女性が、「お母さん心配しているよ、私と降りよう」と声をかけてくれてようやく腰を上げたそう。お名前を聞いたけれど遠慮されたので、お礼を言っておきました、とのこと。その駅では助役さんが、「お母さん次にこういうことがあった時にすぐに連絡が取れるように連絡先やお名前を控えていいですか？」とおっしゃるので、次男を連れてきてくれた終点の（こちらはなんと）駅長さんにもお伝えして帰宅する。次の日さっそくパンを、というわけにはいかないの、同じ法人の作業所で作っているクッキーを10袋ずつそれぞれの駅に宅配便で送る。夕方送ったのにその日の夜には着いたそう（さすが駅だ？）翌日お礼の電話をしたら、「もうみんなでいただいちゃいました」といわれてびっくりする。さて、ここ何回かの次男の行動を周りの人にどう考えるか聞いたら、圧倒的大多数が、「マッピングじゃないの？」と答える。つまり、意図的に、自主的に「乗り鉄」をやっているんだろうと。





よこはま三歩

はじめまして。長島健太と申します。

桜の開花も楽しみになってきた今日この頃ですが、私も東やまたレジデンスで働かせていただいて、もうすぐ1年になります。去年は桜の開花が早くて入職する頃には桜の葉が落ちてきていたことをふと思い出し、時の速さを感じています。

さて、今回は、「桜」にちなんだ場所をご紹介しますと思います。そこは「野毛」です。桜の名所はたくさんありますが、気軽に桜と春のお散歩を両方楽しめるところなんです。大岡川沿いにきれいに咲く桜の花たち。そして、昔ながらの風情も残す野毛の通りは晴れた春の日にはたまらない散歩コース。4月の第1週の週末には桜祭りが毎年開催されており、多くの人で賑わっています。また、少し坂を上ればそこは「野毛山動物園」。春の暖かな日差しを浴びて元気いっぱいの動物たちが暖かく迎えてくれることだと思います。ちなみに「野毛」には隠れた名店が多いんです。老舗の洋食屋さんから、某バラエティー番組の「きたなシュラン」で紹介された中華屋さん。そして笑顔あふれるご夫婦で迎えてくれる和食のお店など、多くのお店が軒を連ねています。

思わず外に出たくなる、そんな春の日。「野毛」なんていかがですか。

東やまたレジデンス 長島 健太

△▼横浜やまびこの里後援会▼△

横浜市内で自閉症という障害を持つ人たちが地域で生活するためのサービスを、一つずつ作り出していく活動をしている『社会福祉法人横浜やまびこの里』の活動のバックアップを目的としています。

入会された方には「マンスリーやまた」「後援会報」をお届けします（郵送）

会員種別	個人会員	法人会員
会費	1口 3,000円／年	1口 10,000円／年
入会時期 (定時入会)	7月または1月	
会費納入方法	(ア)7月入会者 7月～12月入会者は当該年度の会費を納入し、次回からの会費は翌年の7月に納入し、以後毎年7月となります。 (イ)1月入会者 1月～6月入会者は当該年度の会費を納入し、次回からの会費は翌年の1月に納入し、以後毎年1月となります。	
振込口座 (郵便振替)	横浜やまびこの里後援会 <口座番号> 00240-3-76163	

★後援会のお申し込み・お問い合わせ★

横浜やまびこの里 後援会事務局

TEL045(591)2728

～編集後記～

新年が明けたと思ったら、早くも3ヶ月が経とうとしています。ということは、年度も新たになるということですね。ということは、新たな一歩を踏み出す人も多いのだらうと思います。送り出される側だけでなく、送り出す側も、新たな一歩、誰もが不安を感じる第一歩目を安心してスムーズに踏み出せるように、これからも日々精進していきたいと考えています。（小林信篤）

表紙写真 ペンネーム：国鉄福私鉄道（こくてつぷくしてつどう）

編集 社会福祉法人横浜やまびこの里（編集責任者 小林信篤）

横浜市都筑区東山田町 270 番地

TEL.045-591-2728/FAX.045-591-2768

法人ホームページ <http://www.yamabikonosato.jp/>

印刷 ワークステーション 横浜市神奈川区西神奈川 1-14-6-1F TEL.045-316-5710

購読料 1部 15円（税込み）